



●がんばろう日本！がんばろうものづくり中小企業！

財団法人名古屋産業振興公社

常務理事兼プラズマ技術産業応用センター長 久米 道之

東北地方太平洋沖地震、巨大津波、福島原子力発電所崩壊、一連の悪夢とも言うべき事態、しかしこれは現実であり、世界でも有数の経済大国、日本で起きた出来事です。家族、共同体、社会、その社会を支えるインフラ、そのすべてが跡形もなく奪い去られました。死者・行方不明者合わせて2万3千人以上、被害額は20兆円を超えと言われています。生き延びても住む家もない、また原発崩壊による放射性物質漏出の影響により先祖代々の土地を離れざるを得ない、そうした数多くの同胞の苦難を見るにつけ、今技術に関わる者としてでき得ることに最大限尽力せねばと、心奥から湧き上がる何かに突き動かされます。

我が国の根幹をなすものづくり産業は、今回の大震災により二つの面で甚大な影響を受けました。一つはサプライチェーンの崩壊による生産停止です。自動車の生産停止は国内に止まらず、海外にも及びました。それは国内部品メーカーの世界シェアの大きさを示すものでもあります。生産不能が長引けば結局シェアを失うことに繋がります。幸い5月を底にV字的回復が見込めるとの声も聞かれ、少しほっとしています。もう一つは原発崩壊によるエネルギー問題です。我が国の発電電力はその約3割を原子力発電が占めていますが、今後原子力への依存度が大きく低下することは避けられそうにありません。当地域においても浜岡原発が停止し、産業活動への影響が懸念されます。電気・ガスは安定して供給されることが本来の使命です。今後再生可能エネルギーへの転換が進むでしょうが、産業活動に影響が出ないことが大前提であり、そのために電力供給をどうするか、十分な議論と明確な指針の策定が急務です。そうでないとものづくりの基盤が揺らぎます。

世界各国の目が今我が国に注がれています。一体日本はどうなるのだろうか。しかし日本は間違いなく復活します。復活の意味は、原発問題を含めた大震災からの復興だけでなく、先行きに光を見出せない我が国を覆う閉塞感からの脱却も含めています。国においては、かかる状況を打破するために、新成長戦略「元気な日本」復活のシナリオが描かれていますし、名古屋市においても2020年の名古屋市の将来を見据え、今年度から5年間の産業振興ビジョンが策定されています。目指す方向に大きな違いはありませんが、注目すべきは、課題に向き合い、解決の処方等を示すことで新たな需要を創造しようとする、課題解決型戦略です。

地域の復活、ものづくりの再活性化、それは意欲あるものづくり中小企業によって成就されると確信しています。その意欲あるものづくり中小企業が課題解決手段として、高価な真空設備を必要としない冷たい大気圧プラズマを手にした時、技術革新が始まり、付加価値の創造へ繋がる可能性が拡がります。文字通り冷たいプラズマはプラスチックや生体が得意です。プラズマの中には電子、イオン、ラジカル(活性種)等が混在しますが、それぞれを有効に活用することで求める機能が得られます。もちろんプラズマは一つのツールです。解決の手段は他にもあります。それぞれの中小企業がそれぞれの得意分野で課題解決を図り、新たな付加価値を創造する。こうした連鎖が日本復活のシナリオです。復興の足音は高く、崩壊した半導体工場は驚異的なスピードで復旧し、生産を開始しています。

四季折々豊かな自然の中で育まれた日本人の感性は、逆境の中でも秩序、勤勉さを失うことなく、あるがままの自然を受容する。そのしなやかさが日本人の日本人たる所以です。